

漢字の学習 ～これまでに学習した漢字～

※ 福島県立高等学校の入試問題載せています。二〇一九年度福島県立高等学校入学者選抜試験問題の場合には(H31) 改題の場合は(H31改)と簡略化して表記してあります。

漢字の読み【⑧までが音読み、⑨からは訓読み】

—— 線部の漢字の読みがなを書きなさい。

漢字の書き取り【音読み】

—— 線部を漢字に直しなさい。

漢字の書き取り【訓読み】

—— 線部を漢字に直しなさい。

① 過 <u>刺</u> に反応する。(H30) ()	① ジュンジョよく並ぶ。(H31) ()	① 心にキザむ。(H31) ()
② 自分で考えて納得する。(H27) ()	② 家具をハイチする。(H31) ()	② 光が木をテらす。(H31) ()
☆③ 懸命に努力している。(H26) ()	③ 父はウンユ省に勤めている。(H29) ()	③ 手伝ってもらいたスかった。(H30) ()
④ 手当たり次第に話す。(H25) ()	④ カンダンの差が激しい。(H28) ()	④ お祝いの会にマネかれた。(H29) ()
⑤ 力を發揮する。(H23) ()	⑤ 平和主義をテイシヨウする。(H28) ()	⑤ 深く息をスう。(H29) ()
☆⑥ みんなの面倒を見る。(H23) ()	⑥ 十分の一にシユクシヤクする。(H27) ()	⑥ 白鳥のムれを眺める。(H28) ()
⑦ 作業の効率を高める。(H19) ()	⑦ 燃料切れをケイコクする。(H27) ()	⑦ 話を聞きソコねる。(H28) ()
⑧ そばの元祖と呼ばれる。(H18) ()	⑧ 興奮して顔がコウチョウする。(H26) ()	⑧ 運動で体力をヤシナう。(H27) ()
⑨ 布の手触りを感じる。(H28) ()	⑨ 文章をカンケツにまとめる。(H26) ()	⑨ 劇で主役をエンじる。(H26) ()
⑩ だとうな結論を導く。(H27) ()	⑩ 適切なハンダンを下す。(H25) ()	⑩ 山頂で日の出をオガむ。(H26) ()
☆⑪ 外の風景を眺める。(H26) ()	⑪ 宇宙のシンピを探る。(H25) ()	⑪ 公園で落ち葉をヒロう。(H25) ()
⑫ 問いかけなくても済む。(H26) ()	⑫ 歌をハク奏用にヘンキョクする。(H24) ()	⑫ 野山が新緑にソまる。(H25) ()
⑬ 目を背けない。(H23) ()	⑬ 本を五万部ゾウサツする。(H24) ()	⑬ 世の中の変化がイチジルしい。(H24) ()
⑭ 親しく交わる。(H22) ()	⑭ 明日の天気をヨソクする。(H23) ()	⑭ 目上の人をウヤマう。(H23) ()
⑮ 技術の伝達を妨げる。(H20) ()	⑮ ユウビン番号を記入する。(H22) ()	⑮ 晴れた日に畑をタガヤす。(H23) ()
⑯ 素直にお礼を言えた。(H19) ()	⑯ 飛行機のソウジュウ席を見る。(H22) ()	⑯ 柔らかい日の光をアびる。(H22) ()
☆⑰ 痛みを訴える。(H19) ()	⑰ ヒゾウの品を展示する。(H21) ()	⑰ 畑の雑草を取りノゾく。(H21) ()
⑱ 彼は確かに歌が上手だ。(H18) ()	⑱ 近くの公園をサンサクする。(H21) ()	⑱ 春のオトズれを心待ちにする。(H20) ()
☆⑲ 鮮やかな色。(H16) ()	⑲ 新しい校舎をケンチクする。(H20) ()	⑲ 多くの時間と労力をツイヤす。(H20) ()
☆⑳ 四季に恵まれた日本。(H14) ()	⑳ 地下にあるシゲンを活用する。(H20) ()	⑳ この機械の操作はヤサしい。(H19) ()
⑳ 竿 <small>さお</small> を操 <small>さ</small> って船を出す。(H14) ()	㉑ 着実にリエキを上げる。(H19) ()	㉑ 海岸にソって工場が並ぶ。(H19) ()
㉑ 一人一人に手紙が届く。(H13) ()	㉒ 適切にシヨチをする。(H19) ()	㉒ 頼みをココロよく引き受ける。(H18) ()
㉒ 面と向かって座った。(H13) ()	㉓ 大切な文化イサンを守る。(H18) ()	㉓ 彼女はともホガらかな人だ。(H18) ()
☆㉔ 印象が違 <small>ちが</small> ってうれしい。(H11) ()	㉔ 家と学校の間をオウフクする。(H18) ()	㉔ 先生に貴重品をアズける。(H17) ()
☆㉕ ひもで縛 <small>むす</small> っておく。(H11) ()	㉕ 年間活動計画をケントウする。(H17) ()	㉕ 学級会の司会をツトめる。(H16) ()

※ 「☆」は中学校で学習した漢字、または中学校で学習した漢字をふくむ熟語。その他は全て小学校で学習した漢字。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ヒメジョオンの白い花を茎からむしると、花粉で指先が汚れた。花を捨て、半ズボンの尻で指を拭く。中日ドラゴンズの野球帽子を脱いで、汗で蒸れた上に風を入れた。アスファルトの照り返しがまぶしい。朝のうちはうるさいくらい鳴っていた蝉も、昼下がりのいまはどこに消えてしまったのか、聞こえるのは大通りを行き交う車の音だけだった。

「おにいちゃん、バス来たよ」

母親に手を引かれたなつみが、少年を振り向いて声をかけた。少年は黙って帽子をかぶり直す。目深に、かぶる。母親に顔を見られたくなかった。バスに乗り込んだ。板張りの床の、古い型の車両だった。ワックスのにおいが鼻をついて、うつむく顔は自然としかめつらになった。

空いていた二人掛けのシートに、母親が先に座ってなつみを膝に抱き取った。保育園の年長組のなつみは赤ちゃん扱いされて少し不服そうだったが、母親はそれにかまわず、少年に「早く座りなさい」と言った。

怒っていない。少年にもわかる。母親を怒らせるのではなく悲しませてしまったから、隣に座ってからも帽子のつばをあげられない。膝の上で握った右の拳が、いまになつてずきずきと痛み出した。

バスが走り出すと、母親は軽く息をついて、気を取り直すように笑った。

「最初は緊張するから、しようがないよね」
少年は何も応えない。「ごめんない」が言えない。「ゴ」の音が、さつきから喉につつかえたままだった。

「初日だと、そういうこと、よくあるんだって。だから先生もぜんぜん怒らなかつたでしょ。向こうの子もケガをしたってほどじゃないんだし、だいじようぶよ」

「……うん」
「明日会ったら、『ごめんね』て言えばいいんだから、気にしない気にしない」

それが言えるぐらいなら、最初から喧嘩などならなかつた。謝る以前、喧嘩をする以前に、横からちよつかいを出してくるあいつに「やめろよ」と一言「カットしたせいで、「ヤ」の音がつかえさえしなければ、そのまま、どうということもなく終わっていたはずなのだ。」

(出典 重松 清『きよし』新潮社より)

(1) ① 「昼下がり」とあるが、このとき、どのような音がしていたか。文章中から十字程度で書き抜きなさい。

--

(2) ② 「母親に顔を見られたくなかつた。」とあるが、少年が母親と顔を合わせられずにいる様子がわかる一文がある。その一文を、少年がバスに乗り込んだ後の文章から探し、初めの五字を書き抜きなさい。

--

(3) ③ 「軽く息をついて」とあるが、これは母親のどのような気持ちを表れた動作か。もっとも適当なものを次のア～エの中から選びなさい。

- (4) ④ 「しようがないよね」とあるが、何がしようがないのか簡潔に答えなさい。
- ア あきれている気持ちを少年にわからせるための動作。
イ 怒りたくなる気持ちを抑え落ち着かせるための動作。
ウ 悲しみを振り払って気持ちを入れかえるための動作。
エ 泣き出しそうな気持ちを必死でこらえるための動作。

--

(5) 少年は謝ることについて複雑な気持ちをもっている。そのことについて書かれた次の文のA・Bにあてはまる言葉を考えて書きなさい。

・母親はAに「ごめんね」とひとこと言えはいいと少年をばげましている。しかし、少年はBにも「ごめんない」のひとことを言えずにいる。

A		B	
---	--	---	--

漢字と語句のドリル
読み

―線部の読みを書きなさい。

- ① たこが揚がる ()
② 古代の住居。 ()
③ 姿を隠す ()
④ 模型をつくる。 ()
⑤ 額に汗。 ()
⑥ 肥料をやる ()
⑦ 証拠を集める。 ()
⑧ 絶版になる。 ()
⑨ 勢いがある。 ()
⑩ 入会を勧める。 ()



国語二 説明文を読もう

◆学習日 月 日

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんはよく、学校の授業で読書感想文を書かされた経験があると思います。でも、「読書感想文は好きではない。」という人が多いのではないのでしょうか。読んでいる時は楽しかったのに、感想文を書けと言われるとうんざりする、という人がたくさんいます。これは、「読むこと」と「書くこと」が地続きになっていない明白なあらわれです。

私は読書感想文ほど書きやすいものはないと思っています。なぜかという、書くネタとして最初から本という題材がたくさん用意されているからです。何もネタがない、まっさらなところで文章を組み立てるには、よほど工夫しないと面白いことは書けません。

エッセイストは身の回りに起きたことを何気なく書いてるように見えますが、人が読んで面白いものを書くのは想像以上に大変なことです。それは、私たちがふだん友達と冗談で笑いあっていることが、お笑い芸人のネタとして通用するかというと、通用しないのと同じです。

「読書感想文のように元になる素材があつて、それについて何かを書くのは、実は非常に書きやすいことだと認識しておきましょう。」

(出典 齋藤 孝『読み上手 書き上手』ちくまプリマー文庫より)

(1) ① 「これ」が指す内容を答えなさい

(2) ② 「私は…います。」と筆者が考えた理由を述べている部分の初めと終わりの三字を書きなさい。

(3) 第三段落のエッセイストと芸人について、次の問いに答えなさい。

I エッセイストが書いている「身の回りに起きた何気ないこと」にあたるのは、芸人にとっては何か。文章中から二十二字で探し、初めと終わりの三字を書き抜きなさい。

II 芸人にとつての「通用するお笑いのネタ」は、エッセイストにとつては、何にあたるか。文章中から書き抜きなさい。

--

(4) [] に当てはまる接続する語句として、最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア なぜなら
- イ ところで
- ウ ですから
- エ もしかして

--

(5) ③ 「読書感想文の…何かを書く」と反対のことを述べている部分を文章中から二十五字で探し、初めと終わりの三字を書き抜きなさい。

漢字と語句のドリル

語句
反対の意味を表す漢字を組み合わせ、二字の熟語を作りなさい

① かいへい		② ぜんあく		③ しょうこう		④ そんごく		⑤ こうし	

線部を漢字で書きなさい

- ① ヘイキン値 ()
- ② ザツな仕事 ()
- ③ ホワフな知識 ()
- ④ セイカクな話 ()
- ⑤ ひもでタバねる。 ()

読書感想文
読書感想文を書くことがきらいな人もいると思いますが、いい本と出会えば、あっという間に書くことができます。夏休みにたくさんの本と出会えるように、読書に親しんでみてください。

国語三 詩を読もう

次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい

鹿

村野 四郎

- 1 鹿は 森のはずれの
- 2 夕日の中にじつと立っていた
- 3 彼は知っていた
- 4 小さい額が狙われているのを
- 5 けれども 彼に
- 6 どうすることが出来ただろう
- 7 彼は すんなり立って
- 8 村の方を見ていた
- 9 生きる時間が黄金のように光る
- 10 彼の棲家である
- 11 大きい森の夜を背景にして

(出典 『現代文庫 1088 村野四郎』より)

(1) 「彼」とは誰か。詩の中から書き抜いて答えなさい。

(2) ① 「じつと立っていた」とあるが、鹿が額を狙われているにもかかわらずじつと立っていたのはなぜか。

(3) ② 「村の方を見ていた」について、次の問いに答えなさい。

I その「目」はどのような目だと思われるか。最も適当なものを次のア～オの中から選びなさい。

- ア おびえている目。
- イ あきらめている目。
- ウ 悲しんでいる目。
- エ 取り乱している目。
- オ 静かにすんでいる目。

II それはどの言葉からわかるか。詩の中から書き抜きなさい。

(4) ③ 「生きる時間が黄金のように光る」について、次の問いに答えなさい。

I ここに用いられている表現技法として最も適当なものを選びなさい。

- ア 擬人法
- イ 体言止め
- ウ 直喩法
- エ 暗喩法
- オ 倒置法

II ここでは、何を何にたとえているか。次の□にあてはまる言葉を詩の中から書き抜きなさい。

□ を □ にたとえている。

(5) 詩を読みながらA・B・Cの三人が話し合っている。次の話し合いを読んで、()に当てはまる言葉をあとの語群からそれぞれ選びなさい。

- A 2行目には「夕日」とあるけれど、11行目は「夜」となっているね。2行目と11行目の間には、時間の変化はないようなんだけど、どうしてだろう。
- B ほんとうだ。気づかなかったけど、どうしてかな。
- C そうかな。「夜」になっているんだから、「夕日」から「夜」までは時間が経っているんじゃない?

A でも、読んでみると、やっぱり時間の変化はないと思うな。そうだ! 「夕日」は最後の夕日で、ほとんど「夜」なんだ。「夜」の方は、「夕日」が見えなくなった瞬間くらいの夜の入口なんだ。「夕日」と「夜」の間にほとんど時間のない(ア)なんじゃない?

B そうだよ。それは鹿の(イ)の「境目の瞬間」を暗示しているんだよ。

A そうかもしれないね。「境目の瞬間」っていい言葉だね

C すこいね。きつとそうだよ。

B そうすると、9行目の「黄金のように光る」も(ウ)なんだね。

ア		イ	
		ウ	

語群

瞬間 生きる時間 静止した時間 境目の瞬間 生命
生と死 変化 あきらめ 生きることへの執着

漢字と語句のドリル

似た意味を表す漢字を組み合わせて、二字の熟語を作りなさい

① てんかい

② ぞうか

③ りべつ

④ しゆくしょう

⑤ えんちょう

あどけない話

智恵子は東京に空がないという、ほんとの空が見たいという。私は驚いて空を見る。桜若葉の間に在るのは、切っても切れないむかしなじみのきれいな空だ。どんよりけむる地平のぼかしはうすもも色の朝のしめりだ。智恵子は遠くを見ながら言う。阿多多羅山の山の上に毎日出ている青い空が智恵子のほんとの空だという。

「智恵子抄」より

国語四 随筆を読もう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

漢字と語句のドリル

読み

—線部の読みを書きなさい。

私はたいくつなときなどよく庭石をひつくりかえして、トカゲの卵さがしをした。すると、しめった黒土のくぼみに白いピンポン球のような小さな卵が産みよせてある。手にとってみると、硬質ゴムでできているようにいかにもぶ厚い。私はそれを失敬すると敷石の上にぼんぼんとはずませて遊んだものだ。「第一の問題は、なぜぼくだけがこんな目にあわなければならないのか、です。」跳ねる卵のなかで、未来の哲学者はそんなことを考えていたのかも知れない。夏の日はずいぶん長い。日がかたむいてすこしずつ地熱もさめ、ケラがジイジイとうつとうつとらしい声で鳴きはじめると、トカゲたちは「こた」ちにはバトンタッチして夏の隅っこに姿をかくす。このいとこもやはり恐竜めいてはいるが、学者先生のように、はでなフロックコートも着ていなければ、答えのないようなことを考えてむだな時間をつぶすこともしない。「私のモットーは、地味に、そしてたしかかな道をいくことです。」

ヤモリ。人は守宮といつてこの生き物を尊敬はするが、ドアなどしめたとたんにベタンと床におちてくれば、十人が十人とも「キャツ」と叫んで逃げ出してしまう。

だがこの家の守り神様だつて、すきで人前におっこちてくるわけではない。かべとおなじ灰色の服を着て、すこしさきにとまっているガガンボをつかまえようと、じつとねらいをつけているときに、いきなりバタンとやられたものだから、指の吸盤がつかべからはなれてしまっただけのことだ。「せつかく三時間もおなじ場所で待ちぶせていたのに、これで今夜の計画がくるってしまいました。」

(出典 舟崎 克彦『雨の動物園』ちくま文庫より)

- (1) ① 「トカゲの卵」を比喻を用いて、何にたとえているか。文章中から探し、そのまま書き抜きなさい。

こと			

書き

—線部を漢字で書きなさい。

- ① 海にノゾむ家。 ()
- ② ヤサしい性格。 ()
- ③ リツパな行動。 ()
- ④ ヨクジツの朝。 ()
- ⑤ 大声でヨぶ。 ()

読み

—線部の読みを書きなさい。

- ① 異なる意見。 ()
- ② 裁判をする。 ()
- ③ 正座をする。 ()
- ④ 土砂くずれ。 ()
- ⑤ 職に就く。 ()
- ⑥ 明日を担う。 ()
- ⑦ 創意工夫。 ()
- ⑧ 頂上に至る。 ()
- ⑨ 抑揚をつける。 ()
- ⑩ きびしい批判。 ()

一次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

雑草 北川冬彦きたがゆきひこ

雑草が
あたりかまわず
伸びほうだいに伸びている。
このけしきは胸のすく思いだ、
人に踏まれたりしていたのが
いつのまにか
人のひざを没するほどに伸びている。

ところによつては
人の姿さえ見失うほど
深いところがある。
このけしきは胸のすく思いだ、
伸びはびこれるときは
どしどし伸びひろがるがいい。
そして見ばえはしなくとも
豊かな花をどっさり咲かせることだ。
(出典『北川冬彦詩集』沖積舎より)

(1) この詩の種類を次から選びなさい。(4点)

- ア 口語定型詩 イ 口語自由詩
ウ 文語定型詩 エ 文語自由詩

(2) ①②「このけしき」は、それぞれ何を指しますか。「雑草がく様子」のようにそれぞれ書きなさい。(各4点)

②	①
雑草が	雑草が
様子	様子

(3) 「胸のすく思ひ」とは、「心が晴れやかになる、すつとする」という意味ですが、このときの作者の気持ちについて説明した次の文の()にあてはまる言葉をあとの語群から選びなさい。(4点)

人にかえりみられず、じやまされる雑草だが、その生命力で人間を圧倒する姿に()を感じている。

- ア 美しさ イ はかなさ
ウ 清らかさ エ たくましさ

(4) この詩から作者のどのようなメッセージが読み取れますか。次のア〜エから一つ選び記号で答えなさい。(4点)

- ア 人の注目を浴びるように常に派手な行動を心がけたい。
イ 人の注目を浴びることのないようひっそりと人生を送りたい。
ウ 他人にほめられずとも自分なりに充実した人生を送りたい。
エ 他人にほめられるよう常に細心の注意を払って生きたい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

オニギリは、日本人にはお弁当としても人気がある。ノリをまいてもいいし、中にカツオやコンブなどを入れるとさらにおいしい。塩とゴマだけをかけたオニギリもなかなかおいしい。オニギリが嫌いな人はそれほど多くないだろう。ところが、中国では、まずオニギリという食べ方がなかった。

ぼくに、黄さんという中国の大学でいっしょに考古学を勉強した友人がいる。かれが日本に留学していたとき、発掘のアルバイトをしていた。訪ねていくと、自分でお弁当を作っていると言う。中国の人も冷たいご飯を食べるのかと見ていた。すると、お湯をご飯に注いで、お茶漬け(かれに言わせるとお粥)にして食べていた。黄さんは、刺身もウナギの蒲焼きもカレーもラーメンも好きだが、冷たいご飯だけはどうしても苦手だった。

中国では、「冷たいご飯を食べる」という言葉は「監獄に入る」と同じ意味になる。それくらい、冷たいご飯を食べるのをいやがるのだ。

最近、上海にできた日本のコンビニで、オニギリを売っているのを発見した。ただし、見ていると、かならず電子レンジで「チン」と温めてから食べていた。ぼくたち日本人は新鮮な食べ物はずなわち生もので、冷たくても平気という味の仕組みがどこかすりこまれているのかもしれない。

中国の人にとって、冷たいオニギリはおいしくないと思いがちでも、なんとか食べるができる。しかし、どうぞとすすめても、とてもいやな顔をしてほとんどの人が食べないものがある。

ぼくが中国の天津に留学していたときの出来事を紹介してみよう。同室のA君(日本人は、あるとき生卵をぶっつけた)ご飯を食べたくなった。

